





☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。(時間は時刻)

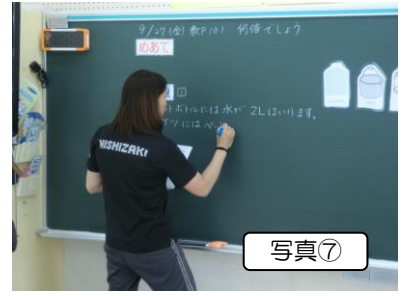
11:35 【計算タイム】写真⑤、黙々と問題にむかう。翔真さん 14 秒、美音さん 41 秒。個人差はあって当たり前である。自分の目標でトライさせたい。11:38 写真⑥、前時の振り返り。ここまで実にあっさり進める。11:40 写真⑦、本時の課題提示。すばらしい進行である。「余計」が全くない。



写真⑤



写真⑥



写真⑦

授業導入で大切にされなければいけないのは「今日は何をやる。」前段に時間をかけすぎないことである。

ノートにすぐ貼れる絵図の準備。ホワイトボードは、この後の共有のために使われる。11:59 ボードが配布され各々の解答の仕方を式と言葉で書く。



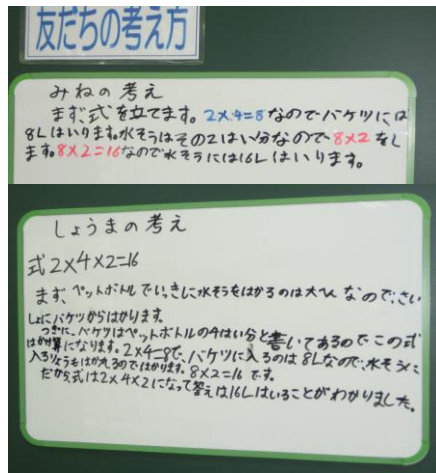
授業展開も素晴らしいが、この子たちがすっかりこのスタイルに慣れている。つまり日常であることがわかる

【距離感】

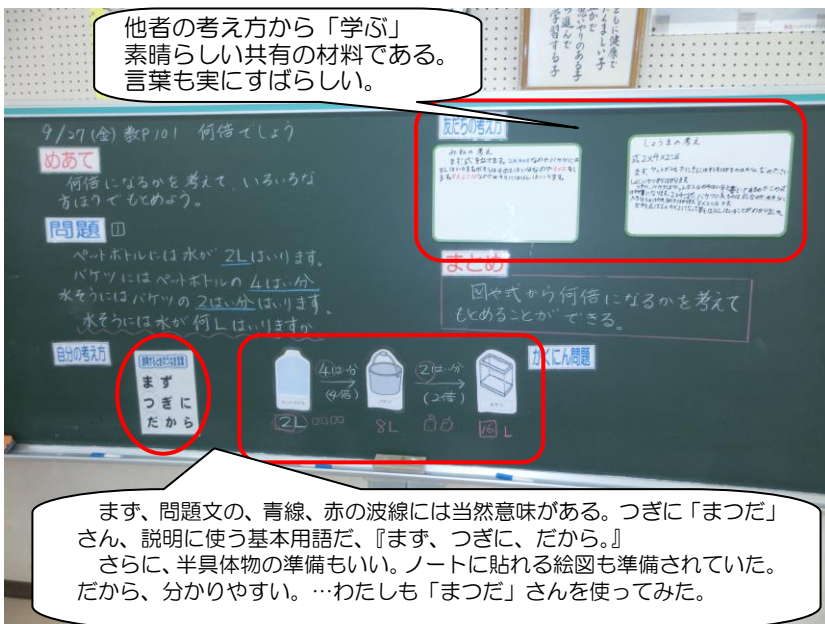
下の 2 枚の写真、授業者の距離感がある。授業者が何を意図としてこの距離間を持っているのか。感じて察して欲しいところ。



共有する練習台（学び合い）である。理路整然と語る。答えは同じであるが、立式や説明の言葉がちがう。だから、共有する価値が高まる。校内研のテーマから考えると、大切な「学び合いの場」である。



【授業の終末時の黒板。 見事！素晴らしい板書。授業や思考の流れが一目瞭然である。】



他者の考え方から「学ぶ」素晴らしい共有の材料である。言葉も実にすばらしい。

友だちの考え方

まずつぎにだから

まず、問題文の、青線、赤の波線には当然意味がある。つぎに「まつだ」さん、説明に使う基本用語だ、『まず、つぎに、だから。』さらに、半具体物の準備もいい。ノートに貼れる絵図も準備されていた。だから、分かりやすい。…わたしも「まつだ」さんを使ってみた。

こちら、今年度の赴任である。前任校で算数授業について秋田の授業スタイルを研究してきたという。素晴らしい、文科省推薦に値するかも？「分かりやすい」授業である。算数も言語的活動が重視され、立式やその根拠が説明できる力を育成するとある。本時も児童 2 名ではあるが、見事に自分と仲間の考えを共有し、まとめることができた。

「友達の考え方」が他者との対話になる。自分のやり方と仲間のやり方を比較し、新たな知識が各々に内化され、自己の昇華が図られることになる。教師の思考を促すための手立ても素晴らしい。必要とされるものがすべて準備されていた。



☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。

【1対1の教室】

どう思います？教師1人、子ども1人。せめて、あと一人と節に願うところである。授業者も子どもも、前年度から1対1の教室である。一人であることのメリット、デメリットそんなことをのんきに議論している場合ではない。この状況を余儀なくされている両者に対して何がしてあげられるだろうか？子どもだけでなく教師も「つらい」を感じているはずだ。校内での理解と支え合いを期待する。



【本時の課題提示】



異分母のたし算である。絵図をみてすぐに立式する。

☆分母が違うとどうなる？

☆分母が違う意味は？

子どもに語らせたいところである。

【通分する】



なぜ、通分しなければいけないか？

☆分母を揃えることの意味は？

☆分母が違うままではなぜいけないの？

【めあての提示】



計算の仕方を説明するが、本時のめあてとなっている。▲計算の前に通分することの意味をじっくり扱いたかった。

【訊いてあげる。聴いてあげる】

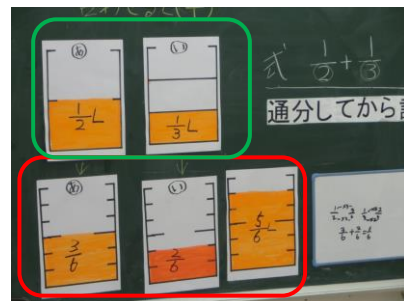


写真⑧



写真⑨

「通分してから計算する。」が提示され、ホワイトボードで一緒に考えてあげる。写真⑧、「訊いてあげる。」写真⑨、「聴いてあげる。」である。一人しかいない、メンタルな距離感が難しい！非常につらい両者である。



写真⑨で、通分して計算することの手順や手続きはきちっと説明した。確かに本時は「計算の仕方の説明」がめあてであったが、▲上写真の絵図を使って、一目盛りの大きさの違いやその意味。目盛りの大きさをそろえるための通分の意味などをぜひ扱ってほしかった。

H先生、M先生、T先生授業公開ありがとうございました。私にとっても久しぶりの安田小でした。H先生、M先生へき地の学校や地域には慣れましたか？一人の教育公務員として派遣された職場です。割り切っていくましよう。素敵な授業公開に感謝します。

国頭村立安田小学校

国頭村屈指の環境学習とテニスの区である。平成19年には、野生生物保護活動における環境大臣賞を受賞した。その後も、地域の人の協力により、環境学習や、自然保護に関する特色ある授業が展開されている。

平成16年の村内中学校の統合前は、県内外にソフトテニスの強豪校として名が知られている。現在でも、当時の写真が職員室やローカに飾られている。

現在、児童数が6名となり、かなりさみしい状況ではあるが、村内の他のへき地校と同じく、「学びの共同体」の理念による学校経営、授業経営に挑戦である。今年度、3名の担任のうち2人が新赴任で校長先生も今年度からという職員状況である。「『学び』って何？」新たな職員を迎えて「学び」の学び直しへの挑戦である。



国頭学びの会ゆい